

# 白河高校同窓会報

発行所  
郵便番号 961-0851  
福島県白河市南登り町54  
白河高校同窓会  
電話 24 1116 番

発行人  
安田好伸  
編集委員長  
堀川哲雄  
(古槻堂堀川印刷所)



## 楽しい同窓会の開催を

同窓会長 安田好伸(高18)

本校の学校祭である、三年に一度の登龍祭が、九月に盛大に開催されました。

十月、登龍祭の余韻も消えて、三年生は大学入試センター試験に向けて、一心不乱に取り組んでいます。数ヶ月後には全国から集まる英傑たちと競い、必ずや志望校への合格を勝ち取ることでしよう。文武両道の名門である白河高校で学んだことを存分に發揮して、すばらしい成績を上げてくれることと期待しています。

今までの傾向から見ても、白高生の大半の進学先は首都圏の大学でしょう。最近、首都圏の有名大学では、大まかに見て入学者の七割が首都圏出身者で、

残りの三割が地方出身者のようです。進学状況に大きな変化はありませんから、首都圏と地方との居住人口の差から見ても、この傾向は変わらないどころか、さらに大きな差になってゆくこととしよう。白高生の発奮を大いに期待します。

同窓生諸兄におかれましては、ぜひとも後輩たちの志望実現に向けて、物心両面の援助をお願いいたします。平成二十四年の創立九十周年では、同窓生諸兄のご協力により、東日本大震災からわずか一年という短期間にもかかわらず、大きな事業を達成することができました。

また後援会のご尽力で、各教室にエアコンが設置されて、学

習環境は著しく改善されましたが、近い将来に付け替える時期が到来します。

また七年後には、創立百周年の事業が予定されます。大きな節目として、今から心積もりをしてゆきたいと思えます。

同窓会の支部活動におきましては、それぞれ活発な活動を展開していただいております。

東京(首都圏)登龍会の総会は、五月に、上野の精養軒で開催され、九十人を超える同窓生が集い、大いに盛り上がりました。これから東京登龍会のホームページを立ち上げるとのことと、さらなる活性化が期待されます。

また西郷支部の総会は八月に、三十人ほどの同窓生が参加して、楽しくにぎやかに開催されました。

この後、年末にかけて、塙支部、棚倉支部、矢祭支部の各総会が開催されることと想います。支部の皆さんが一堂に会して、先輩方や後輩たちの話に耳を傾けながら、懇親を深めることは、大いに意義

あることです。

同窓会の基本単位は同級の集まりであり、同学年の集いであり、部活動で苦楽を共にした先輩や後輩のつながりでしょう。卒業して間もない、若い世代ではそれほどなつかしさを感じないかもしれませんが、世代が

進むにつれて、学生当時を回顧し、なつかしむ度合が増してくるような気がします。多くの機会をもうけて、同窓の集まりを開催していただくのが、同窓会全体の活性化につながると思います。共に白高の校歌を歌いましょう。

### 「夜空」

福島県美術賞

寺嶋 鉄太郎



(作品解説は4ページ)

# 素振り

## 『連覇』を支える日常の努力

校長 高橋 正人



本校弓道部男子は、昨年度に引き続き本年度も団体戦で優勝し、県大会連覇を果たし、インターハイに出場することができました。

近年、本校において、弓道部を始め、剣道部、陸上競技部など大会連覇を果たす団体・個人が増えていきます。

かつての水泳部の県大会二十一年連続(昭和二十一年から昭和四十一年)という偉業達成の裏には、情熱を傾ける教師と想像を超える厳しい練習に耐える生徒の頑張りがあったものと思います。

文武両道を掲げている本校であるが故に、生徒は日々の学習と部活動との両立に悩み、時には自信を失い、部活動への情熱が揺らいでしまうことも

ありますが、切磋琢磨できる友人の存在が明日の活力となり、こうした赫々たる成果につながっているものと思えます。

白高が白高であり続けることは、ある意味で、連覇し続けることと同義であります。そして、連覇を裏付けるものこそ、日々の地道な『素振り』の繰り返しに他ならないものと信じます。

今後とも、日常を大切にしなから、真摯に努力し続ける白高生の育成のため全力を尽くしてまいりますので、同窓会の皆様方からの御指導・御鞭撻を心からお願い申し上げます。

# 素振り

登壇 白河高等学校進路指導の扉 校長メモ

～基礎を大切にすることが大成の鍵である～  
平成27年4月

素振りを忘れない人でありたい  
心の素振りを  
魂の素振りを  
そして、  
日々の学びという素振りを

野球選手は素振りを忘れない、一日も欠かさず、たとえどんなに疲れていても、その繰り返しこそが、グラウンドで活きる。

白高で学ぶ一人一人にとって素振りとは何か。それは、日常を愛おしむように生きること。そして、日々高みを目指して歩み続けること。そうした日常の、奇跡のような日常の一つ一つが一人一人を変え、一人一人を逞しく育てていく。

いつ、いかなるころかにも素振りが自信と勇気を与えてくれる。

(文責：福島県立白河高等学校長 高橋正人)

## 平成27年度同窓会総会開催

去る五月十六日、平成二十七年同窓会総会が開催者七十名の参加によりホテルサンルート白河で開催されました。金澤隆夫事務局長(高23)の進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、校歌斉唱を行った後、この一年間に亡くなられた会員の方々のご冥福を祈り、黙祷を行った。続いて安田好伸会長(高18)から挨拶がありました。



長が生徒の進路状況や体育文化の各種大会での活躍についての報告と今泉恒久教頭をはじめ四月から白高に転任された先生方の紹介を行いました。この後西郷支部長の相馬博氏



(高17)と女性の同窓生で構成する桔梗の会の六角富美子氏(高6)が紹介されました。

次に来賓を代表して父母と教師の会会長の近藤通氏(高39)と後援会会長の櫻井和朋氏(高12)から祝辞をいただきました。議長には恒例により還暦を迎えた高25回卒の土屋郁夫氏が選出され、議事に入りました。まず鈴木雅文庶務(高28)から平成二十六年事業報告が、石塚次男会計(高26)から平成二十六年決算報告が、加えて立花栄治会計監査(高18)から監査報告がありました。続いて役員改選が行われ、安田会長をはじめ、これまでの副会長及び会計監査の再任が承認されました。次に鈴木庶務から平成二十七年事業計画(案)が、石塚会計から平成二十七年予算(案)が提案され、承認されました。最後に佐藤幸彦副会長(高29)が開会を宣言し、総会を終了しました。

平成二十七年役員 会長 安田好伸(高18)、副会長 中村彰(高20)、同 金子芳尚(高26)、同 佐藤幸彦(高29)、会計監査 立花栄治(高18)、同 有賀秀晴(高28)、同 満山喜美(高33)



### 【講演会】

総会前に、理化学研究所環境資源科学センター副センター長の長田裕之氏(高25・東大卒)による「微生物は錬金術師である」という題の講演がこなわれました。

長田氏は農芸化学者として数々の賞を受賞されています。

微生物と食中毒や感染症との関係、そして、それらの病気を治療するための医薬品の研究などについて、一般的には難しいとされる内容をわかり易くお話されました。参加者一同、興味深く、拝聴させて頂きました。

(文責 植村美洋)



平成26年度白河高等学校同窓会会計決算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日
収入の部 総額 4,878,381円
支出の部 総額 2,865,406円
次年度への繰越 2,012,975円

収入の部

(単位 円)

Table with 6 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks, and Reference. Rows include '繰越金', '入会金', '賛助金', '雑収入', and '合計'.

支出の部

(単位 円)

Table with 6 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks, and Reference. Rows include '総務費', '事務費', '通信費', '会議費', '総会費', '旅費', '慶弔費', '交際費', '教育助成費', '学校図書充実費', '体育文化助成費', '卒業記念品助成費', '登龍会館運営助成費', '進路対策費', '事業活動費', '支部育成費', '会報発行費', '事業費', '研修費', '登龍賞基金', '基金', '同窓会基金', '予備費', and '合計'.

収入額 4,878,381円 支出額 2,865,406円 差引残高 2,012,975円は、次年度へ繰り越し

なお、同窓会基金定期預金の総額は5,491,245円(常陽121,065円・東邦1,250,000円・白信4,120,180円)

平成26年4月17日監査を行い、関係書類を照合の結果、適正に執行されていることを認めたので報告します。

会計監査 立花 栄治
有賀 秀晴
満山 喜美

平成27年4月16日

福島県立白河高等学校同窓会長 安田 好伸

平成27年度白河高等学校同窓会予算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日
収入の部 総額 5,019,000円
支出の部 総額 5,019,000円

収入の部

(単位 円)

Table with 6 columns: Item, 27 Budget, 26 Budget, Comparison Change, Remarks, and Reference. Rows include '繰越金', '入会金', '賛助金', '雑収入', and '合計'.

支出の部

(単位 円)

Table with 6 columns: Item, 27 Budget, 26 Budget, Comparison Change, Remarks, and Reference. Rows include '総務費', '事務費', '通信費', '会議費', '総会費', '旅費', '慶弔費', '交際費', '教育助成費', '学校図書充実費', '体育文化助成費', '卒業記念品助成費', '登龍会館運営助成費', '進路対策費', '事業活動費', '支部育成費', '会報発行費', '事業費', '研修費', '登龍賞基金', '基金', '同窓会基金', '予備費', and '合計'.

款、項目間の流用は、会長一任とする。

平成27年5月16日

福島県立白河高等学校同窓会長 安田 好伸

# 母校だより

## 人事異動

平成二十七年年度の人事異動は次のとおりです。

三月末には、伊東光司教頭が橘高校へ転出されたのをはじめ、合わせて二十三名の方々が異動となりました。また、四月一日には、須賀川桐陽高校より今泉恒久教頭他二十三名の先生方をお迎えいたしました。

その中で同窓生の異動は、ご退職が西牧学先生(高25・数学)、引き続き本校に勤務されます野木良一先生(高25・理科)、埼玉県に採用された志賀卓也先生(高53・英語)の三名です。また、転入された先生方は、長沼高校より鈴木晃夫先生(高43・保健体育)、福島西高校より池田泰浩先生(高51・理科)、そして鈴木敏博先生(高24・英語)の三名です。

学校教育においては、現在、大学入試制度改革ということで検討が進められ、大学入試センター試験にかわる新テストの導入など、変化が求められてきております。

このような中におきまして、白河高校が、地域は勿論、世界的に活躍する人材育成の場となるように、また、生徒一人一人にとって自己実現を図る場となるように、同窓生の皆様には今後ともご指導とご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



教頭  
今泉恒久

県南地区高等学校の基幹高である白河高校に赴任し、歴史と伝統を感じる毎日です。

生徒たちは、学習に対する真摯な態度や部活動に汗を流し文武両道を体現する姿など、同窓生の皆様の伝統を受け継いでいます。

生徒たちにとってかけがえのない三年間となるよう努めてまいりますのでよろしくお願ひいたします。



鈴木晃夫  
(高43)

この四月より、母校である白河高校の教壇に立つこととなり

ました。後輩たちの自己実現や人間形成など多方面における手助けができればと思います。また母校の発展に少しでも貢献できればと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



池田泰浩  
(高51)

この四月より、母校である白河高校に赴任しました。卒業以来の母校で、高校生当時を思い出しながら、懐しさと共に勤務しております。多くの生徒が礼儀正しく、文武両道に励み、まさしく「登龍健児」にふさわしい生徒だと感じます。微力ながら母校の発展に貢献できればと思っています。よろしくお願ひいたします。



## 表紙の作品について



### 「夜空」

寺嶋 鉄太郎 (高16)

私は平成十五年、勤めていた中学校を定年退職し、その三年後から学生時代から念願の彫塑作品制作によりやく取り組むことができました。十年目の今年もモデルを観察して粘土で作っています。

「テーマをどうするか？」です。先頃までは、健全で生き生きとした生命感のようなものを表現することが多かったのですが、近頃は人間の内面に、より目を向け、苦悩や悲しみも表現の対象と考えています。

彫塑は彫刻の中でも肉づけをしたり削ったりと修正を何度もできる比較的取り組みやすい分野です。しかし粘土が素材のため保存するためには一作業必要です。変形や割れが生じるために石膏に置きかえるなどの方法がとられます。白い石膏液は作業場を白く汚しますので適当な場所が必要で、アトリエを持たない私は大信公民館の御好意で作品作りでいつも突き当たる壁

政治的なメッセージを込めることは避けていますが、この作品では星空を見上げるポーズの中に、四年経ったフクシマの私達の現状を込めてみました。消えない不安の中で、安心感を見付けたいという思いを込めて作りました。ポーズは「動き」を出すこと、人体の組み立てられた「構造」に主眼を置いて決めました。今後、主題をより深く掘り下げて印象的な作品を作りたいと思っています。

## 賛助金納入のお願い

会報第一三七号を高47回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。平成二十六年度は二、二六二、五七〇円をご協力頂きました。感謝

申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。  
賛助金は 一口一、〇〇〇円  
できるだけ二口以上でご協力ください。  
郵便振替番号  
〇二一〇〇一四二二七七四  
加入者名  
福島県立白河高等学校同窓会



進路報告

東北大学五名、福医大十名(医学部二、看護学部八)を含み 国立大学八十一名合格

進路指導主事 渡部正一

今年春の卒業生の進路状況は下記の通りです。二七四名の卒業生のうち四年制大学進学者が二三八名、短期大学が四名、専門学校が十名、就職が三名となっております。

四年制大学合格者のうち国立大学合格者は、東北大五名、福医大医学部二名をはじめとし合計八十一名にのびりました。私立大学も、早稲田大三名、慶應大一名、明治大七名、中央大八名、立教大一名、法政大六名、青山学院大二名など延べ四〇三名にのびり、卒業生の八十六・九パーセントが四年制大学への進学を実現しました。また、現役進学をしていた生徒の健闘も光り、四十五名が国立大学(含防衛医大)に合格しました。部活動加入者の四年制大学への進学率は卒業生全体より〇・七ポイント高い八十七・六パーセントとなり、昨年度を一・三ポイント上回りました。

今年度は、登龍祭もあります。が、受験に限らず、日頃の地道な努力と切り替えを上手にすることが求められます。粘り強く周囲と協調しながら自分の目標にこだわり追求する姿勢は、社会に出て大切な資質だと思います。今年の三年生も、先輩方について頑張り続けてほしいと思います。

平成26年度卒業生 大学合格状況(現役生のみ)

Table with 6 main sections: 国立大学, 私立大学, 専門学校, 予備校, 留学, 就職(含む公務員), and 短期大学. Each section contains a grid of school names and student counts for H26, H25, and H24.

# 進学報告

## 東北大学へ進学して



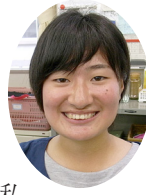
一組  
大竹 孝樹

早いもので、私が東北大学に合格してから半年が経ちました。大学がどういう場所なのか、半期を過ごして分かったことを簡単にお話したいと思います。1つめに、大学の勉強は結構大変です。特に数学や物理学は自分で時間をかけて勉強することが前提になっており、授業のスピードがとても速いです。教科によっては、大学図書館に本を借りに行つて勉強したり、友達と勉強会を開くこともあります。また、理系は実験の授業がありますが、これのレポートもかなり大変です。実験レポートや大学における理系科目の勉強の仕方などは慣れるまでが大変ですが、友人と一緒に頑張ると乗り越えることができます。2つめに、大学の長期休暇は非常に長いです。大学によると思いますが、夏休みが約2か月、春休みも同じくらいあります。もちろんこの期間の使い方も自由ですから、英語を極めるもよし、プログラムミン

かもしれないませんが、大学で何をしようかとワクワクしながら、乗り越えてみてください。

## 千葉大学

### 法政経学部へ入学して



一組  
菊地 春香

私が大学に入学してから半年が経ちますが、高校の頃に想像していた以上に楽しく充実した大学生活を送っています。総合大学であるため、さまざまな学部の人たちと関わることもでき、人数も多く、さまざまな地方から来ている人達もいるので、大学の友達と話すことだけでもとても面白いのです。また、千葉大学の落ち着いた雰囲気も居心地が良いです。法政経学部というところで幅広く自分の興味に合わせて選んで学ぶことができるところが良いです。大学生になって一番変わったことは、自由に使える時間が多なことです。私は女子ラクロス部に入学しました。練習は朝のたぬ週五日、四時半に起きてグラウンドに行っています。教育学部の体育科以外で、大学生になってまでサークルでなく部活に入る人は少ないですが、私は高校では部活に入っていないので高校のときにやりたかったことを今やっていると、部活を通して他大生にもたくさん友達もできますし、いろいろなところにも行くことができます。まだ始まったばかりの大学生活ですがもっと学び、たくさんの経験をしたいです。

## 県立医大看護学部へ進学して



二組  
伊藤 優那

この半年が経とうとしています。この半年は、新たな出会いや勉強などであつたという間の時間でした。大学と高校との違いは、自由であるということです。自分で講義を選択し、サークル活動やアルバイトをして自分だけのライフスタイルを作ることができます。県立医大看護学部の授業は、生物学や身体の仕組みを学ぶ解剖生理学などの専門分野、ベトナムキングの実習など、看護学の基礎から学ぶ内容です。今秋には老人ホームで学習内容を生かしての実習があり、期待に胸が膨らんでいます。また、県立医大はサークル活動が盛んです。私は硬式テニス、ダンス、ボランテニアの3つに入っており、とても充実した毎日を送っています。3つは多いと感じるかもしれませんが、多くの学生が複数のサークルに加入しています。サークル活動で培われた社会性は、大学での生活だけでなく、社会に出てからも役立つと思います。高校生のうちは、大学に入ることが目標になっていた人も多いかもしれません。大学に入ってから、新たな目標を掲げそれに向かって努力することで充実した学生生活になります。受験勉強は大変だとは思いますが、志望大学に入学できるように頑張ってください。

## 福島大学へ進学して



二組  
藤田 剛志

学してからは半年が経ちました。新しい友達や先輩ができて、高校以上に勉強に部活にと、忙しいですが楽しい毎日を過ごしています。それでは、私が所属している行政政策学類について少し紹介したいと思います。行政政策だからといっていきなり法律や自治行政など専門的なことはあまり学びません。例えば、現代政治論Iでは高校の現代社会のよいうなものを学びました。しかし、高校と違うところは自分で答えを考えなければいけないところがあります。その考えを表現する場が試験やレポートです。試験前は毎日のように友達の家集まり勉強会を開きました。また、行政政策学類にはチューター制度があり、各ゼミ毎にチューターが男女一人ずつ付き、履修登録の仕方や大学生活での相談に乗ってくれます。そのゼミについてですが内容は多種多様です。私のゼミでは主にヘイト・スピーチについて学びましたが、他には県外の小学校に行き小学生と交流したり、アニメ「妖怪ウォッチ」のようかい体操をやったりと活動内容は様々です。きっと自分が興味のあるテーマについて学ぶことができますと思います。将来は地元町の役場に勤めたいと考えています。福島大学で学べるもの全てを吸収し地元で還元できるように精進していきたく思います。

## 茨城大学へ進学して



七組  
鹿住 大輔  
(高67同窓会理事)

私が茨城大学に入学してから、約半年が経過しました。この半年の間で何とか大学にも慣れ、忙しくも楽しい毎日を過ごしています。私は大学進学後、先輩に「高校と大学、どっちが面白いですか。」と質問されたことがあります。しかし、この質問にうまく答えることができませんでした。なぜなら大学と高校は大きく異なるところだからです。私が、そのことを強く感じることは一つは、クラスというものがほとんど存在しないことです。行事などに、高校ではクラスという単位で団結して取り組んでいましたが、大学では自分と気の合う仲間と取り組むことができました。それぞれ違った面白さがあると思います。また、授業に関して、大学でも必修科目は必ず受けないといけません。それ以外には自分の興味のある授業を選択することができます。そして、専門科目といった自分の将来に直結する授業もあるので、より関心を持ちながら勉学に励むことができます。高校と違い、友達と競い合いながら上を目指すといったことはありませんが、将来の夢へ近づくと勉強をしています。後輩の皆さんも第一志望の大学に合格し、充実した大学生活を送ることができるよう応援しています。



# 平成27年度部活動前期の成績

部活動名	年月日	大会名	成績	受賞者
陸上競技部	27・5・9	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子総合 第3位	白河高等学校
			男子フィールド 第2位	白河高等学校
			男子走高跳 第3位	鈴木敦也
			男子棒高跳 第2位	深谷紘大
			男子やり投げ 第1位	水戸洋貴
			男子八種競技 第1位	和知悟志
			男子八種競技 第3位	金澤有磨
			優秀選手賞	金澤有磨
			女子100mH 第1位	宮尾和佳奈
			女子5000mH 第3位	設楽 遙
	女子棒高跳 第1位	橋本真実		
	第2位	白河高等学校		
	27・5・23	第61回福島県高等学校体育大会	男子走高跳 第2位	鈴木敦也
			男子八種競技 第2位	金澤有磨
			男子八種競技 第4位	和知悟志
		女子100mH 第4位	宮尾和佳奈	
27・6・15	平成27年度東北高等学校選手権大会	男子走高跳 第4位	鈴木敦也	
		男子八種競技 第4位	金澤有磨	
27・6・20	平成27年度県南陸上競技選手権大会	男子110mH 第2位	和知悟志	
		男子走高跳 第2位	和知悟志	
		男子棒高跳 第2位	深谷紘大	
		女子棒高跳 第1位	橋本真実	
		女子ハンマー投 第2位	鈴木莉奈	
27・6・21	平成27年度県南陸上競技選手権大会 (第68回福島県総合体育大会 県南地区大会)	少年男子Aハンマー投 第1位	松本亮太	
		少年男子Aハンマー投 第3位	根本尚紀	
27・7・9	第68回福島県総合体育大会	少年男子共通走高跳 第3位	鈴木敦也	
		少年男子A棒高跳 第3位	深谷紘大	
水泳部	27・6・7	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子100m背泳ぎ 第3位	栗原天祐
			女子200m自由形 第2位	中島由佳
	27・6・21	第61回福島県高等学校体育大会	女子100m平泳ぎ 第3位	下田真莉
			女子200m自由形 第2位	中島由佳
卓球部	27・5・1	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子学校対抗 第3位	白河高等学校
			女子シングルス 第2位	喬橋優貴
	27・6・13	第68回福島県総合体育大会 県南地区予選	少年男子団体 第1位	白河高等学校
			少年女子団体 第3位	白河高等学校
バレーボール部	27・6・22	夏季県南バレーボール選手権大会	男子第2位	白河高等学校
			女子第2位	白河高等学校
ソフトテニス部	27・5・10	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子団体の部 第4位	白河高等学校
			女子団体の部 第1位	白河高等学校
			女子個人の部 第3位	田家里那子
			女子個人の部 第3位	増子優花
27・6・8	第61回福島県高等学校体育大会	団体戦女子 第3位	白河高等学校	
テニス部	27・5・10	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子学校対抗戦 第3位	白河高等学校
			男子シングルス 第3位	田村大生
	27・6・11	第68回福島県総合体育大会 県南地区大会	男子I部シングルス 第3位	森 広大
			男子I部ダブルス 第3位	森 広大 野崎貴仁
			男子II部シングルス 第3位	吉島永和
サッカー部	27・5・11	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	第3位	白河高等学校
山岳部	27・5・30	第61回福島県高等学校体育大会	優秀パーティー	白河Aパーティ
			優秀パーティー	白河Bパーティ
	27・6・21	第68回福島県総合体育大会	山岳リード競技 少年男子 第2位	市川友哉

部活動名	年月日	大会名	成績	受賞者	
山岳部	27・6・21	第68回福島県総合体育大会	山岳ボルダリング競技 少年男子 第5位	鈴木泰雅	
	弓道部	27・4・18	第67回福島県春季弓道大会	男子団体 第3位	白河高等学校
		27・4・25	第18回福島県弓道遠の選手権大会	高校男子の部 優勝	坂本賢吾
		27・5・10	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子団体 第1位	白河高等学校
				男子個人 第3位	薄井 駿
				射道優秀賞 男子団体	白河高等学校
				女子団体 第1位	白河高等学校
		27・5・30	第61回福島県高等学校体育大会	男子団体 第1位	白河高等学校
				男子個人 第1位	薄井 駿
				男子個人 第2位	寺田茂樹
				射道優秀賞	薄井 駿
				女子個人 第6位	八代侑奈
		27・6・14	第68回福島県総合体育大会 県南地区予選	男子団体 第1位	白河高校A
				男子団体 第2位	白河高校B
				男子個人 第1位	薄井 駿
			男子個人 第2位	関根俊太郎	
			女子団体 第1位	白河高校A	
	27・7・5	第68回福島県総合体育大会	少年の部 総合男子 第1位	白河高校A	
			少年の部 総合男子 第3位	白河高校	
			少年の部 近の競技 男子団体 第1位	白河高校A	
			少年の部 近の競技 男子個人 第1位	関根俊太郎	
			少年の部 近の競技 男子個人 第3位	薄井 駿	
			少年の部 遠の競技 男子団体 第1位	白河高校B	
			少年の部 遠の競技 男子団体 第3位	白河高校A	
			少年の部 遠の競技 男子個人 第3位	藤沢昌輝	
			少年の部 遠の競技 男子個人 第5位	坂本賢吾	
			少年の部 遠の競技 男子個人 第6位	中宿晃太	
			少年の部 近の競技 女子団体 第4位	白河高校	
			少年の部 遠の競技 女子団体 第5位	白河高校	
			少年の部 遠の競技 女子団体 第5位	八代侑奈	
剣道部	27・4・29	第40回牡丹杯剣道大会	高校男子の部 優勝	白河高等学校	
			高校女子の部 優勝	白河高等学校	
		27・5・10	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子団体 第3位	白河高等学校
				女子団体 第1位	白河高等学校
				女子個人 第1位	斎藤美南
				女子個人 第2位	小坂沙貴
		27・6・1	第61回福島県高等学校体育大会	女子個人 第1位	斎藤美南
		27・6・13	第68回福島県総合体育大会 県南地区予選	男子団体 第3位	白河高等学校
				女子団体 優勝	白河高等学校
				女子個人 第3位	小坂沙貴
	27・6・28	平成27年度東北高等学校選手権大会	女子個人 第3位	斎藤美南	
	27・7・5	第68回福島県総合体育大会	女子団体 第3位	白河高等学校	
バドミントン部	27・5・8	第61回福島県高等学校体育大会 県南地区大会	男子学校対抗 第2位	白河高等学校	
			男子ダブルス 第2位	斎藤俊希 片桐直輝	
	27・6・19	第68回福島県総合体育大会 県南地区予選	男子ダブルス 第3位	片桐直輝 藤田捷太郎	
美術部	27・6・28	第69回福島県総合美術展覧会	洋画の部 青少年美術奨励賞	穴戸愛望	
			洋画の部 青少年美術奨励賞	金内美空	
	27・7・5	第61回福島県水彩展	郡山市教育委員会 教育長賞	瀧浪謙太	
			青少年奨励 福島民友新聞社賞	若月稔彦	
書道部	27・6・28	第69回福島県総合美術展覧会	書の部 青少年美術奨励賞	宮本裕子	

# 部活動報告

## 個人7位入賞の インターハイ

弓道部 顧問 根本文彦

第60回記念全国高等学校総合体育大会弓道競技(8月6日(木)～9日(日))の男子団体と個人戦に2人(福島県の男子出場枠全て)に2年連続で出場してきました。

今年のインターハイは奈良県吉野町で催され、会場も宿舍も大変不便なものでしたが、昨年の経験を生かして準備をしてきたため、学校での練習も体育館を使い、暑いグラウンドの仮設弓道場での練習も計画的にこなすことが出来たと思います。

個人戦では、薄井駿と寺田茂樹の2人とも予選・準決勝を勝ち抜き、決勝へ進出することが出来ました。薄井駿は順位が付きませんでした。寺田茂樹が7位に入賞できました。団体戦でも予選を昨年より



りも多い15中で勝ち抜き決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント1回戦は長野吉田と対戦し15-13で惜敗しましたが、試合内容は昨年よりも良く、生徒たちがよく練習し頑張れたインターハイだったと思いました。

はるばる奈良まで駆けつけて応援していただいた多くの保護者の皆様や卒業生たちには感謝申し上げます。また、目前で先輩たちの勇姿を見た1・2年生達の輝く目が伝統をつないでくれることを期待させてくれるインターハイでした。

## 二度目のインターハイ

陸上競技部 顧問 高松拓哉

7月29日から8月2日にかけて和歌山で陸上競技のインターハイが行われた。本校からは8月1日の走高跳に3年の鈴木敦也が出場した。県南大会・県大会・東北大会と勝ち進んだ鈴木であったが、この3大会では「高校生で2メートルジャンパーになる」という本人の目標はまだ達成されていなかった。

3回以内にバーを越えねばならない走高跳は、一瞬に全集中力を要する競技である。午前中の予選は1m95cmから行われる。全国大会出場者とはいえ、その高さは難しく、「記録なし」の選手も少なくない。昨年は鈴木も



「記録なし」で涙をのんだ。1m95cm、鈴木は2回目の跳躍でクリアした。「記録なし」の雪辱を見事に果たした。次の2m00cmは彼の1つの目標である。2回目でクリアし、鈴木はガッツポーズを見せた。続いての2m03cmが予選通過ラインである。応援席からのプレッシャーをよそに鈴木は1回でクリアし、本県で唯一、午後の決勝へ進んだ。午後の決勝でも1m98cmを2回目でクリアし、次の2m01cmも最後の3回目でクリアした。この2m01cmが鈴木決勝の記録となり、全国で13位となった。最後の大会で「2mジャンパー」という自身の目標を達成した鈴木は、競技後にすがすがしい顔を見せてくれた。

## 総文祭(将棋)に参加して

将棋引率 根本文彦

7月28日(火)～29日(水)に滋賀県米原市にある滋賀県産業文化交流館で行われた、第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門に、有賀才貴の3回目の全国

大会として同行しました。過去2回とも予選敗退でしたが、今回は予選を3勝1敗で勝ち抜くことができました。決勝は上位32名によるトーナメント方式で戦われましたが、1回戦で横浜高校の生徒と対戦し惜しくも敗れてしまい、初の決勝は早くも終わってしまいました。

全国大会の決勝トーナメントともなると、確実に強い相手ばかりで上には上があるのですが、前回の全国大会よりもたのしい将棋を指しているように見えました。

今後、全国大会に挑戦できる機会は限られると思いますが、予選通過を達成できたので、次は決勝でも1勝を実現できるように腕を磨いて欲しいと思います。



## びわこ総文

### 作品について

書道部 三年 筒井千尋

やっこの思いで手にしたびわこ総文への出場権。会場には様々な作品が展示されていて、そ

の中に自分と同じものを臨書した作品があったのですが、墨の濃淡や雰囲気全く違って、同じ手本を見ながら臨書しているのにこんなに違うものになるのだと驚きました。

交流会では滋賀県発祥の筆伝大会に参加しました。筆伝大会は、大筆を使って一人一画ずつ書いていき、チームごとにある一文字を完成させて、その一文字で他のチームと競うというものです。全国各地から集まったメンバーのみんなと一つの作品を製作していくなかで仲良くなることができ、自然と笑顔がふれるのが自分でも分かるくらい楽しかったです。

一生に一度の貴重な経験をさせていただき、指導してくださったり、応援してくださった先生方には本当に感謝しています。今後は今回経験したことを生かして、より自分を磨いていきたいと思えます。





# 「蝉脱」より

添田恒夫  
(現職員)

「蝉脱」

君は「蝉脱」を知るか

七年の歳月を掛けて

地中に雌伏した蟬の幼虫は

ようやく夏に息吹を感じて

地上に顔を出す

ほんの小さな穴を通って

日の目を見たさなごは

自らの登るべき高みを見定めて

手近な抛り所をよじりはじめる

黙々と一心不乱に

或る者は樹木を

或る者は岩を

また或る者は

そこに立てかけてあった

寄る辺ない箒にさえも

ようやく自らの居場所を

見定めたさなごは

そこで「蝉脱」を開始する

「蝉脱」の痛みに耐えながら

新しい身体を吐き出すように

身をよじりふるわせて

「蝉脱」の痛みに耐え続けるのだ

君は「蝉脱」を知るか

その痛みに耐えずして  
蟬は蟬たることをえないのだ

それとも苦渋に満ちた暗い絵か

一つ一つの風景は

すでに神の命によって

決せられていると人は言うが…

若い命

「タブラ・ラーサ」

とルソーは言った

いまだ描かれざる純白の紙

若い命

そこにはこれから

どんな絵が描かれてゆくか

どのように美しい絵か

## 俳句

高杉正生 (旧職員)

寒明の太鼓や杜に育つ杉

雨雲の穴へと翔る春の鳥

川岸の石に坐しとり鳥雲に

庭前と我が物顔の熊蜂

訴えるごとくお漆の牛蛙

## 川柳

小山孝 (高14)

この古着捨てると持論消えてゆく

これほどの強い返事は無い無言

切れ過ぎる鉄僕には使えない

## 短歌

鈴木憲子 (高8)

兄弟青葉城下に生まれ出で

縁にひかれ登龍児となる

喜びも苦しみ時も手とりて

越へ来し夫と野の道とゆく

こもごもの思い残して孫帰る

庭に小さき麦わら帽子

見せばやなの朝焼けの那須の山

故郷離れて久しき吾子に

白萩の着物の似合う母なりき

会ひてわびたきこと多くなる

億劫の奇跡によってこの世に生  
まれいでた命を  
十全に生きるのだ

## 不可思議

不可思議とは

「シギスベカラス」と訓む

この宇宙の存在の

なんとシギスベカラスざる

不可思議さよ

はるか太古のビッグバンを経て  
宇宙は生まれた  
そして今も宇宙は生まれつつある

幼い頃宇宙は

円盤の形に膨らみつつあると聞  
いた

そして膨張は今も

膨張しているということは

宇宙にも果てがあるということか?

そして果てがあるということとは

その外側には何が?

もしもこの世に宇宙が存在しな  
かったならば…?

私の幼い魂は「無」の存在にお  
ののいた

「神」というものが

どこかにあるような気がする

それが無かったならば

生まれ生まれつつあるこの摂理  
はどうだ?

滅び滅びゆくこの定めは何だ?

## 後援会入会のおすすめ



後援会会長  
櫻井和朋 (高12)

同窓会の皆様には、日ごろ大  
変お世話になり、深く感謝申し  
上げます。

第十二回後援会総会は、平成  
27年4月25日(土) 大体育館で  
行われました。

平成20年より開始された各教  
室へのエアコン設置事業が、平  
成26年で完成した事、学校行事  
学習活動、部活動への援助等が  
例年通り実施されたとの報告が  
あり、新年度として、エアコン  
の維持、管理、生徒活動充実等  
の予算が可決されました。

エアコンにつきましては、リ  
ース期間の終了時がせまり、新  
たな課題も発生しますので、5  
月30日、「東京登龍会」に出席し、  
趣旨を説明し、募金のお願いを  
して参りました。

さて、今年、高校野球100年、  
49代表校のうち、初出場校は7  
校、三重代表の津商は、創立95  
年目で初出場を勝ち取りました。  
本校もそろそろかなと、期待  
しております。

母校の生徒達のために、入会  
(年会費五千円) よろしくお願  
いいたします。

# 支部だより

## 平成27年

### 東京登龍会総会の報告

澤野昌雄(高10)

恒例の東京登龍会総会を平成27年5月30日、上野精養軒にて開催。幸い好天に恵まれ青葉薫れる上野の森に来賓、安田好伸同窓会長、金子芳尚同副会長、金澤隆夫同事務局長、櫻井和朋後援会長、吉田浩美高校教頭、植村美洋同総務部長の6名を含め総員86名が出席。加藤直二幹事(高27)の司会で議事進行し吉田忠雄副会長(高5)の開会のことば、松岡久幸事務局長(高22)の朗々たる校歌独唱で幕を開けました。来賓から夫々祝辞及び無限の可能性の挑戦者たれを標語として文武両道に励む現役高校生の現況報告を頼もしく拝聴しました。また後援会長からは後援会設立の主旨説明、現役高校生をサポートするため後援会費納入の要請がありました。人見信夫会長(高20)の挨拶では圓谷眞三五氏(高1)の様に東京で個展を開き未だ頑張っている人がいる。サムエル・ウルマンの詩にあるように挑戦を続けている限り青春である、青春とは心の若さである。また新白河



駅前の芭蕉像は小林豊氏(高26)制作である。他にも卒業生に数多く立派な方々を輩出している。また2014年には母校の理数科が県内入試偏差値でトップになったことも関係者のインターネット情報で流れてきている。東京登龍会ではインターネットの活用も検討中である。もっと多くの若い人達の参加を促し楽しい場にした旨の言葉がありました。

その後、各議事報告、それに対する承認が行われました。特筆するものとしては会議の招集について「白河高等学校同窓会会員であつて本会会長の認めた者は、本会の総会に出席できる

ものとする」の一項が付加されました。

講話は双石芳則氏(高20)による「集団的自衛権等の防衛法制整備について」で、元空将補、元第83航空隊司令兼那覇基地司令の経歴から「平和安全法制整備法案」について夫々、国際平和支援法案、武力攻撃・存続危機事態法、国際平和維持活動協力法の今迄と変わらない点と変わる点、変わってどうなるかを具体的な事例を挙げ現場の生々しい体験からの講話を大変興味深く拝聴しました。安保反対の世代は名称そのものに抵抗がありますが中国リスクへの対応を考えて専守防衛を維持しながら限定的な行使を可能にするこ

と等を柱にした安保法制については考えさせられました。講師の最後の自衛隊の命を守るために国民がリスクを負うのか、自衛隊員がリスクを負うのか、自守なのかの違いであるとの話には説得力があり、改めて関心を深めました。木村幹副会長(高7)の閉会の辞の後、佐藤恒雄氏(高6回)が長年に亘る数学の理解及び普及・教育に貢献したとして受賞された瑞宝中綬章の荣誉に対し会としてお祝いの花束贈呈を行いました。

懇親会は司会を近藤信雄幹事(高28)に代わり嶋倉晃顧問(高1)の開会のことば、金田幸三

相談役(中20)による乾杯の音頭の後、年季を積んだ熊田侃夫常任理事(高4)の音頭で校歌・応援歌の肩を組んでの斉唱等があり、若い優秀な卒業生が大勢参加し和気藹々と活気のある歓談の時を過ごし遠藤泰司副会長(高9)の閉会の挨拶で幕を閉じました。

最後になりましたが鈴木和夫白河市長(高20)から欠席の詫言と祝いの電報及び中西恵美子幹事(高22)からブーケの寄贈がありましたことを報告し御礼申し上げます。

### 西郷支部

#### 総会・交流会開催

支部長 相馬 博(高17)

支部総会を八月二十八日午後七時より、村内「中華飯店太幸苑」で開催しました。会員二十名の出席をいただきました。

はじめに、校歌を和知七郎氏(高18)指揮により出席者全員で斉唱(一番・四番)し、ご来賓の西郷村長佐藤正博様(高18)、同窓会長安田好伸様(高18)、教頭吉田浩美様からご祝辞をいただき、事務局長金澤隆夫様(高23・西郷支部会員)にもご臨席を賜りました。

総会は、毎回慣れている真船正晃氏(高22)が進行し、議長は佐藤厚潮氏(高30)がなり、議事では、二十六年度事業及び決

### 同窓生 近況だより

#### 桔梗の会に参加して

服部多嘉子(高9)

昨年十一月十四日、十五日泉崎さつき温泉に於て「桔梗の会」が開かれました。七月恒例の会を十一月に変更して下さり、私は網走から三度目の出席が叶い、感謝しております。

女子一回生は、八十歳になられ、最後の五回生は、喜寿を迎えました。一回生から五回生までの十名が集い、日頃の交流がなくとも同窓の好しみからすぐ打ち解けて、白高の思い出を語り、来し方や近況を話し合っており、来し方や近況を話し合っており、和気あいなな心尽くしの料理を味わい、懐かしい校歌を合唱して宴が終了しました。その



後つるつる温泉に浸って身も心もホカホカになりました。  
語り合うなかで各々が置かれた場で他者に尽くし、隣人愛の実践が窺われ感動でした。  
私の余生も斯ありたいと、心に秘めながら、別れ難い思いで来年の再会を約束し、帰路に着きました。楽しい二日間を有難うございました。



### 念ずれば通ず

諏江俊一 (高25)

今年の同窓会総会は私達の高25回卒が担当しました。私達が入学した時に理数科が設置され卒業してから早43年が経ちました。

総会の講演は理数科卒を代表し理化学研究所環境資源科学研

究センター副センター長の長田裕之君にお願いしました。「微生物は錬金術師である」という演題で、自分が化学者を目指すきっかけや、夢を持つことの大切さを「念ずれば通ず」という気持ちで目標に向かってきたことなどを話してくれました。彼は今年天然物化学者で毎年世界に一人授与される「The Inhofen Award」を日本人として初めて受賞し4月にドイツで行われた授賞式の様子も伝えてくれました。同窓会の安田好伸会長も挨拶の中で白高OBの中に五輪選手は3名いるが、ノーベル賞受賞者はいないと言っていました。そんな日が来る事を期待させる気がしました。

当日は約40名の同窓生が応援に駆けつけてくれました。久しぶりに会う仲間も多く、懇親会も大変盛り上がり楽しい一日を過ごせました。皆さんありがとうございました。

今回の同窓会の総会を担当して思った事ですが、また講演者からも今回要望がありましたのは、毎年一人還暦の年に代表者を選んで講演するので、在校生に聴講する機会を与えて欲しいという事です。今年はそのお願いをしました。日程が合わず実現しませんでした。在校生にとってもOBの話は身近に感じられ刺激されると思うので、次

回以降に是非実現していただきたいと思えます。

### 白河高校10回卒 イチマル会「喜寿祝い」 祝賀会

遠藤喜久雄 (高10)

今年九月九日(水)サンルート白河にて、午後四時から開会されました。初めに喜寿延寿祭祈禱、集合写真撮影を行ない、祝賀会に入り司会進行は遠藤喜久雄に始まり物故者全員に黙禱、大槻昇会長の挨拶、東京支部長田辺睦雄氏の乾杯に続き祝宴が開会され、今までの参加者の思い出話や近況報告等、話題に事欠かなく、大変盛り上がりました。参加者数三十八名午後七時に閉会致しました。



### 叙勲等

- 平成二十六年秋の叙勲 褒章
- 瑞宝中綬章
- 山田 俊郎 (高14)
- 旭日双光章
- 石田 捷一 (高15)
- 瑞宝双光章
- 根本 清夫 (高15)
- 藍綬褒章
- 三 森 繁 (高18)
- 平成二十七年春の叙勲
- 瑞宝中綬章
- 佐 藤 恒雄 (高6)
- 旭日双光章
- 斉 藤 松太郎 (高15)

### 訃報

- |             |          |
|-------------|----------|
| 相楽 昌弘 (高15) | 平成27.7.9 |
| 洪水 捷成 (高15) | 27.7.11  |
| 大関 富男 (高4)  | 27.6.22  |
| 木村 誠治 (高4)  | 27.8.14  |
| 片岡 英信 (中19) | 27.8.27  |

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

### 編集後記

・3年に1度の登龍祭が行われました。市内をパレードした生徒達の仮装行列に街なかの皆さんも、多勢の方が声援をおくり、若者のパワーを感じていました。

・長田裕之氏(高25)のように農芸化学者として、グローバルに活躍されている方、オリンピックに出場した方々など、多才な人材が沢山おられますが、今、際立っている人と云えばテレビ出演200本以上の活躍をしてお笑い界のあばれる君も、母校の卒業生です。

今回、寄稿を予定しましたが、スケジュール多忙で実現出来ませんでした。今後のますますの活躍を期待し皆さんも応援よろしくお願ひします。

・会報の文字が小さいのでは、と云うご意見もあり今号より活字を少し大きくしてみました。

同窓会報について、皆様からのご意見、また近況報告や、なつかしい資料などございましたら是非ご寄稿下さいませようお待ちしております。

### 会報編集委員会

- 会報担当 中村 彰 (高20)
- 同窓会副会長 堀川 哲雄 (高15)
- 編集委員長 堀川 哲雄 (高15)
- 編集委員 瀬戸 安夫 (高22)
- 事務担当(学校植村 美洋 (高27)
- 〃 〃 穴澤 宏子



# 平成27年度「登龍祭」開催

## 9月4日(金)・5日(土)・6日(日)

### 4日 開会式

開会式は、学校長によるフランス語での「枯葉」の熱唱で幕を開け、雰囲気が一気に盛り上がった。続く校内発表では、写真部のコマ撮り写真千数百枚をつなげた動画や、演劇部・吹奏楽部のステージ発表が行われ、在校生も真剣に見入っていた。

### 5日 仮装行列を実施

白河中心市街地約4キロのコースを歩き、登龍祭をPRした。吹奏楽部の先導で全21クラス約五百名の生徒が、趣向を凝らした仮装で練り歩いた。沿道にはたくさんの方々が応援に来てくださり、生徒たちに大きな声援を送っていた。

### 6日 一般公開と閉会式

クラス・部活動・委員会等が企画し、展示発表や模擬店、古本市など工夫を凝らした出し物を披露した。体育館では吹奏楽部・演劇部の発表、生徒・教員の有志によるバンド演奏やダンスが披露された。午前十時のテープカットと同時に待ちわびた一般客が続々と入場した。

午後三時までの公開であったが、小さな子どもからお爺ちゃん・お婆ちゃんまで、約三千人の方が来校してくれた。校内は各教室とも人であふれ、人気企画には長い行列ができた。雨天の心配もあったが、公開終了までもち、盛況のうちに幕を閉じた。

